

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease: prognosis and relationship to internal malignancy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ1-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	13	
	号		
	ページ	1009-14	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1985	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Chanda JJ	Division of Dermatology, Holmes Regional Medical Center
その他著者 1			
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外パジェット病の予後と合併内臓悪性腫瘍についての文献レビュー
	データソース	Medline
	研究の選択	不明
	データ抽出	1962 年から 1982 年までの英文論文からの 196 例と自験例 1 例の計 197 例
	主な結果	乳房外パジェット病は高齢女性に多く、発生頻度は女性外陰部、肛門周囲の順であった。26%が原病あるいは合併内臓癌で死亡。24%が皮膚腺癌を深部に合併、そのうち 46%が死亡。内臓癌合併例は全体で 29%、同時合併例（乳房外パジェット病診断の前後 1 年以内に組織学的に診断）は 12%。肛門発生例は消化管腺癌、陰茎・陰囊・尿道発生例は泌尿生殖器癌、女性外陰部発生例は乳癌および泌尿生殖器癌との部位相関があった。
	結論	乳房外パジェット病は高率に内臓癌を合併し、部位相関性がある。乳房外パジェット病では、消化管および泌尿生殖器系の精査を施行するべきである。
レビューワーコメント	備考	合併内臓癌として、子宮頸癌（扁平上皮癌・腺癌）、膀胱癌（移行上皮癌・腺癌）、前立腺癌、腎臓癌、卵巣腺癌、直腸腺癌、総排泄腔癌、バルトリン腺癌、乳癌が記載されている。
	レビューワー氏名	清原隆宏
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ I ） 乳房外パジェット病と合併内臓癌の部位相関性に関する優れた総説であるが、内臓癌の同時合併の定義を乳房外パジェット病診断前後 1 年以内に組織学的に診断された場合としており、生物学的に正確なデータではない可能性がある。 厳密にはシステマティック・レビューではないが、多数例を詳細に検討しており、現時点ではそれに準ずるものと評価した。